

MACF礼拝説教要旨

2024年2月4日

『 今日、神の声を聞いたら』

ヘブライ人への手紙3章

7だから、聖霊がこう言われるとおりです。

「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、

8荒れ野で試練を受けたころ、

神に反抗したときのように、

心をかたくなにはならない。

9-10荒れ野であなたたちの先祖はわたしを試み、験し、

四十年の間わたしの業を見た。

だから、わたしは、その時代の者たちに対して

憤ってこう言った。

『彼らはずっと心が迷っており、

わたしの道を認めなかった。』

11そのため、わたしは怒って誓った。

『彼らを決してわたしの安息に

あずからせはしない』と。」

12兄弟たち、あなたがたのうちに、信仰のない悪い心を抱いて、

生ける神から離れてしまう者がないように注意しなさい。

13あなたがたのうちだれ一人、罪に惑わされてかたくなにならないように、

「今日」という日のうちに、日々励まし合いなさい。

14わたしたちは、最初の確信を最後までしっかりと持ち続けるなら、

キリストに連なる者となるのです。

15それについては、次のように言われています。

「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、

神に反抗したときのように、

心をかたくなにはならない。」

16いったいだれが、神の声を聞いたのに、反抗したのか。

モーセを指導者としてエジプトを出たすべての者ではなかったか。

17いったいだれに対して、神は四十年間憤られたのか。

罪を犯して、死骸を荒れ野にさらした者に対してではなかったか。

18いったいだれに対して、御自分の安息にあずからせはしないと、

誓われたのか。従わなかった者に対してではなかったか。

19このようにして、彼らが安息にあずかることができなかつたのは、

不信仰のせいであったことがわたしたちに分かるのです。

キリストは神の家を治める大祭司であり、このお方につながり、信頼を深めることで私たちは希望を持って生きることができるようになるのです。

しかし、ヘブライ人への手紙の著者は旧約時代の大事件を引き合いに出して、注意喚起しています。

それは神への不信と自らを人生の決定権を持つ人間に仕立ててしまう傲慢への警告です。

「今日、あなたたちが神の声を聞くな、荒れ野で試練を受けたころ、神に反抗したときのように心をかたくなにしてはならない」という言葉を今朝、私たちはしっかり心に受け止めたいと思います。

作者は詩編95編にある言葉を引用しています。

詩編95

1主に向かって喜び歌おう。

救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。

2御前に進み、感謝をささげ

楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。

3主は大いなる神

すべての神を超えて大いなる王。

4深い地の底も御手の内にあり

山々の頂も主のもの。

5海も主のもの、それを造られたのは主。

陸もまた、御手によって形づくられた。

6わたしたちを造られた方

主の御前にひざまずこう。

共にひれ伏し、伏し拝もう。

7主はわたしたちの神、わたしたちは主の民

主に養われる群れ、御手の内にある羊。

今日こそ、主の声に聞き従わなければならない。

8「あの日、荒れ野のメリバやマサでしたように
心を頑にしてはならない。

9あのとき、あなたたちの先祖はわたしを試みた。

わたしの業を見ながら、なおわたしを試した。

10四十年の間、わたしはその世代をいとい

心の迷う民と呼んだ。

彼らはわたしの道を知ろうとしなかった。

11わたしは怒り

彼らをわたしの憩いの地に入れないと誓った。」

詩編では「あの日、荒れ野のメリバやマサでしたように、心を頑にしてはならない」となっています。メリバとマサでの事件はどちらも水がなくて民が不平を言い、モーセに逆らい、神の心に楯突いた

出来事ですが、メリバはエジプトを脱出してまもなくの出来事、マサでの事件はエジプトから脱出後、

後半の出来事でした。つまり、荒れ野での最初の頃から終わりの頃まで「神への闘争」「神への不信」「リーダーへの不満」は渦巻いていたのです。

確かに水がないという出来事は深刻な試練であり、困難な状況でした。

でも、そこで彼らは神様に信頼することを学ばなければならなかったはずなのです。

つまり、彼らはずっと自分たちが羊飼いを必要とする羊であることを無視し、羊飼いを勝手に追いやってしまうような態度をとっていたのです。モーセを恨み、どうして俺たちをエジプトからこんな荒れ野に連れてきたのだと彼らは文句を言いました。

当初、彼らは神様の偉大な御手によって導き出されたことを経験し、大いに喜んでいただけなのに。

さて、この短い言葉のなかにある「今日」という言葉に注目したいと思います。

イスラエルの人たちの荒れ野での40年も「今日」の積み重ねでした。

神様は私たちに対して「今日、わたしが語る私の思いを無視しないように」「今日、私からの促しを無視しないように」と訴えているのです。

明日からやりますから、私の心を明日になったら整えてください、というのではなく、今日、神様が心に促しを与えておられるなら、その声に従う意識を持つ必要があります。それは決して、難しいことではなく、今、羊飼いが羊である私の状況を知り、私に導きの言葉をかけてくださっているのだと信頼できればよいのです。

その際、その心をゆがめるのは「頑なな心」です。

これは「自分には自分なりの答えがあり、神様からの答えなど不要だ」という思いです。自分はこの線で行くと決めたら神様がなんといってもそれを曲げないような頑固な心です。

さらに、「人を励ましたり慰めたりする言葉をもたない」「よかったね、ありがとう、ごめんなさいと言える心を育てていない」ことも深刻な問題になります。

それは自分のことにしか意識が向いていないので、人と一緒に笑ったり泣いたりできないのです。そこにあるのは孤独ではなくむしろ、孤立です。誰かに励まされ、誰かを励ますというサイクルは私たちの人格的な成長のために重要です。

「誰も私の味方になってくれる人がいません」という訴えに対して、わたしは

「あなたが味方になりたい人はいますか」と尋ねることがあります。

慰め合ったり、味方でいるということは相互関係なのです。

それは、土台の部分で「最初の確信」を共有できないとなかなかうまくいきません。

最初の確信とは「イエス様との出会い」「イエス様の愛を知ること」「神様に愛され許されていることをしっかり心に受け止めていること」から来る「わたしは生かされていると言う確信」です。礼拝を通して、この最初の確信を共有し、深めていくわけです。

私たちの人生ははじめから終わりまで神様への不満や社会への不満、水がない、あれがないこれがないという欠乏の体験が満ちているのかもしれない。

でも、そこでそれらの「不安や不満」のなかに埋没しないで「今、今日、ここで」語ってくださる神様からの慰めの言葉や行動を促す言葉に心を止めて、互いに励まし合いながら前に進むことが大切なのだと言われているのです。それはまさに試練の中にあっても、神様が用意してくださる逃れの道を発見する生き方にも通じています。

昨日も大変だった、明日も大変かもしれない、でも、今日、生かされている中で神様が語ってくださっている大切なメッセージに心に向け、生かされていることを感謝し、いてくれてありがとうを分かち合いながら今、心を落ち着かせて、過ごす意識がとても大切です。その連続が永遠の希望につながっていくのです。

自分が羊であることを忘れ、神が生かしてくださっていることを忘れ、神の愛が届けられていることを無視し、自分を神として生きる姿勢は、神様がそれぞれに用意してくださっている祝福を受け取ることがないまま、この世の旅路を終わることになるでしょう。それは大きな損失です。

心静かに「今日」神様が何を語ってくださっているのか、今日、今、神様は私に何を求めておられるのか、心をさぐっていただきながら、応答していきたいですね。おそらく、わたしたちは神様が何を求めておられるのかうっすらとわかっているはずで

す。

それを先延ばししたり、言い訳しながら拒絶したりしてはいないでしょうか。

もしかしたら、それは、今与えられている環境について「神様に感謝しながら生きなさい」ということかもしれないし、「あの人にメールを出して励ましてあげなさい」ということかもしれないし、「あの人の話を黙って聞いてあげなさい」ということかもしれません。

個人個人、語られている内容は異なっているかもしれません。

「今日、あなたたちが神の声を聞いたら、荒れ野で試練を受けたころ、神に反抗したときのように心をかたくなにはならない」
この言葉があなたの心にどのように響くでしょうか。

MACF礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/qY9mL89YOe0>